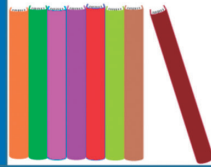




大人が絵本を

第60回 子どもが発達するとき、



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

サイレント・ベビー

昭和時代には聞くことのなかった「サイレント・ベビー」は、平成になった頃から耳にするようになり、現代では一般的なワードとなりました。テレビを点けっぱなしの環境で養育された赤ちゃんの前頭前野の活動が低下して、「慢性疲労」の症状を抱えることになって、笑顔がない、泣かない、視線が合わない状態になるのです。

世の中が、ますます電子メディア化した2019年現在では、サイレント・ベビーを生む環境も増し、母親がスマホばかり操作して、赤ちゃんを見つめる時間や触れ合う時間が減ることで、大人からの「まなざし」と笑顔、それに温かい言葉かけの少ない赤ちゃんが、「笑顔、感情、言葉」の獲得ができなくなり、それが「サイレント・ベビー」を生みだしているのです¹⁾。これはネグレクト(育児放棄)で、幼児虐待に他ならず、地域の子育て支援を担う立場にある小児歯科医師ならびにコ・メディカルスタッフに、より一層の見守りと支援の手が求められているということなのです。

笑いに厳しい赤ちゃん?!

今年2019年明けですぐに、新たにビブリオの仲間に加わった生後6か月のAちゃんは、笑顔の少ないベビーでした。初見の0歳児さん全員にお話している、絵本と電子メディアそれぞれに受ける影響、そして両者との関わり方などをお母様にお話すると熱心に聞き入り、「静かだと寂しいから、テレビを点けていることが多いけど、Aちゃんが起きているときは気を付けよう」と応えられました。そして次に、お母様の口からもれ出てきた言葉は、「こ

の子、笑いのツボが厳しいんです。なかなか笑ってくれなくて…」でした。

サイレント・ベビーのお話にも触れながら、テレビ以外の環境を聞いてみますと、ご自身が内向的な幼少期であった成育歴とともに、お子様にそう多く話しかけてあげていないことと、ご夫妻のご両親は県内他地区在住にあって、核家族の親子3人で引っ越してきたばかりのマンションに住まい、一日のほとんどをAちゃんと2人っきりで過ごす生活が判明しました。今日から行える接し方のご提案には、十分な情報量でした。

Aちゃんが起きているときには、なるべく何らかの言葉かけをしてあげること、その語彙にも限界があるので、大人の助けともなってくれるツールが絵本であって、毎日、絵本の力を借りてコミュニケーションを図るのが0歳台にとっての絵本であること、絵本のフレーズは親子ともすぐに覚えるので、絵本を手にしていないときでも、絵本のフレーズを語りかけてあげると良いこととお話して、早速、親子との読みあいです。

初見の赤ちゃんと読みあうテッパン絵本は、我らが駒形克己プロデューサーの『ごぶごぶ ごぼごぼ』です。

赤ちゃんは、み～んな絵本だいすき!

Aちゃんのお母様とやりとりをする中で、視線を親子へ順繰り移していると、Aちゃんの表情に目が留まりました。生後6か月にあって、眉間にシワを寄せていたのです。尋ねると、「いつもこの表情」のようでした。とにかく、親子の楽しい時間、幸せな時間を感じていただくために、読みあいのスタートです。

「『ごぶごぶ ごぼごぼ』。ぷーん、ぷーん、ぷーん。ぷーん、ぷーん、ぷーん。ぷーん、ぷーん、ぷーん。」

手にするときは！

大人が発達するとき。

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

『ごぶごぶ ごぼごぼ』

駒形克己 作
(福音館書店)



すると、Aちゃんの眉間からシワがすーっと消えたのです。微笑は全くありませんが、読みあっている間、絵本と読み手を順に観察しています。そして、一冊を2分くらいかけて読み終わった途端、Aちゃんの眉間にシワが現れ出たのです。

私は確信しました。絵本を読みあっている間、Aちゃんは、他の赤ちゃんと同じように「楽しい感覚」を味わっているのです。大勢の赤ちゃんが、素の表情からニコニコ顔に変わり、絵本を閉じるとまた、元の表情に戻るのと同じように、眉間のシワが素の表情であるAちゃんにしてみたら、楽しいと感じたからシワが消え、言葉かけがなくなると、気持ちもフラットになって、シワが浮上したのです。

そんな説明をお母様にしてから、もう一冊、『ちいさいまるちゃん ころり』(教育画劇)を読んで、表情の変化をお母様にも観察してもらいました。微笑みはなく、小さな変化なのですが、お子様の表情変化をキャッチすると、お母様は嬉しそうに「毎日、読みます。今日、早速、絵本を買いに行きます。本屋さんに『ごぶごぶ ごぼごぼ』はありますか」と、とっても前向きに明るくなりました。

初見のこの日、3冊目に読んだのは、わらべ歌絵本『ととけっこう よがあげた』でした。



言葉と歌の刺激が、豊かな表情を育む

『ととけっこう よがあげた』でも同じ反応で、眉間からシワはなくなりました。でもお母様は、「わら

べ歌は歌えないです」と及び腰です。そこで、もっと気楽になれる子育ての提案をしました。「絵本を読み続けることは、大人にとっては負担となることもあるので、そういうときには、歌を歌って下さい。わらべ歌でなくてもいい、童謡なら知っている歌があるでしょう」と、歌を想起するお手伝いです。

『ととけっこう よがあげた』

小林衛己子 案 真島節子 絵
(こぐま社)



大人の記憶の彼方に追いやられていた「ぞうさん」や「かたつむり」、それからお母様は「知らない」つもりのわらべ歌も、「あぶくたった」「だるまさん」「いもむし」を歌うと、「あー、そうか!」と、実はレパートリーを持っていたことに気付かれるのです。そして、絵本遊びだけでなく、歌遊びとの相乗効果で、思考機能と情動が発達していくことをお話すると、育児に楽しみを見出し、明るい表情で初来館を終えられました。笑顔のお母様とは対照的に、来たときと同じく眉間にシワを寄せて帰ったAちゃんは、翌週2回目の来館でも初見と同じ様子でしたが、3回目の来館時、なんと眉間からシワがなくなっていたのです。絵本の楽しい言葉を注がなくても、素の表情にシワはありませんでした。そして絵本を読みあうと、若干の笑みが浮かぶようにもなっていたのです。この3週間のお母様の関わり方が目に見えるようで、そのことをお伝えすると、「パパと2人で頑張った」とのことでした。

それから一週間後、初来館からはちょうど一か月経った頃、参加した赤ちゃんおはなし会で、Aちゃんは親子15組の集団の中において、読み手の言葉



のリズムに笑って反応を見せたのです。一番喜んだのが、お母様であることは、言うまでもありません。

「歌いかけ・読み聞かせ子育てのすすめ」

愛しいわが子を「笑いに厳しい」と評したAちゃんのお母様におすすめした絵本遊びと歌遊びは、世界中で古くから子育てに活用されてきました。日本では、三～四世代同居が当たり前だった昭和時代には、おじいちゃんおばあちゃんが子守唄やわらべ歌で孫の子守りをする姿は、ごく日常的な光景でした。それは、効果とか、意義などを考えられたうえでの行いではなく、単純に「赤ん坊をあやす」ための行為でした。

この伝統的な育児法に着目したのは、白百合女子大学人間総合学部発達心理学科の田島信元教授らで、学問領域を超えた共同研究チームを組み、歌いかけ、読み聞かせが親子関係や子どもの発達に及ぼす影響と、効果を生むメカニズムについて、長年の研究によって実証的に明らかにしたのです²⁾。

特に、0歳台の「歌いかけ」には、「マザリーズ」*の音声学的特徴に共通するものがあり、そうしたリズムと抑揚に引き込まれて、子どもの親との共鳴的、一体的な活動が生じ、子どもの親への働きかけのきっかけを与えていることを解明したのです³⁾。

この説は、Aちゃん親子の経過を説明づけるのに完璧すぎるほど納得できます。あまり語りかけをしていなかった6か月の間、Aちゃんと保護者様との「共鳴的、一体的な活動体験」は多くは生まれず、すなわち、Aちゃんがママへ働きかけることも少なく、あやしても表情に乏しかったのです。それが、どうでしょう。

『歌と絵本が育む
子どもの豊かな心』
田島信元 / 佐々木丈夫
宮下孝広 / 秋田喜代美 編著
(ミネルヴァ書房)



歌いかけと、絵本の読みあいを毎日行うようになったことで、Aちゃんとパパママとの共鳴的、一体的活動が生じ、パパママへの働きかけのきっかけとなって、Aちゃんの表情が変わり、双方向のやりとりができるようになったと説明できるのです。

Aちゃんは10か月にもなると、ビブリオベイビーで、私がデスクに座っていようものなら、「あーっ！あーっ！」と発しては、「私はここよ！」「私と遊んで！」と猛アピールをするようになりました。お母様は「数か月前まで悩んでいたことが嘘のよう」と、元気なAちゃんに手を焼く喜びをかみしめているうち、満1歳のお誕生日を迎えました。今、お気に入りの絵本は、リズムカルな『おやさいとんとん』(岩崎書店)です。

大人の発達課題を達成できていますか？

田島氏らはこの大がかりな調査研究で、もっとも興味深い説を示しています。それは、「読み聞かせる側の親や大人たちにとっても大きな発達を促すことになり、見事なまでの生涯発達支援ツールであることを確信した」と明言しているのです³⁾。そして、「大人たちが発達しないで、子どもたちの発達を促すことなどあり得ない」と、ともすれば大人自身が忘れがちになる重要な点にも言及しています。

人間の各発達段階において、すべてに発達課題を持ち合わせています。乳児期、幼児期、児童期など子ども期だけに持つものでなく、中年期であろうと、高齢期であろうと生涯発達を成すのが人間です。まだ、自立していない子どもたちを支援する立場にある大人たちが発達しないでは、子どもたちの発達を促すことなど、できるはずがないのです。

「大人が絵本を読むときは」、「大人こそ絵本を」⁴⁾の切り口と対になる、もうひとつの論点となるでしょう。歌と絵本を介した「歌いあい」「読みあい」が大人自身にとって、大きな発達を促すことになるのです。

*マザリーズ：意識するしないにかかわらず、自然と口を突いて出る乳幼児向けの話し方。マザリーズは、ほぼ全ての言語圏や文化圏で使われることから、ヒト共通のメカニズムがあると考えられている。

子どもたちの発達を支援する立場にある小児歯科医療に従事する皆様方自身の生涯発達支援ツールとして、絵本と歌を診療や研修に活用してはいかがでしょうか。

ビブリオキッズ&ベイベーへいらっしゃい!

絵本と図鑑の親子ライブラリーで新米ママとの出会いを果たすたびに、子育て不安や孤立感を抱いている若いお母様が多いと感じます。

反面、新米ママでも親御さんが近距離に住まい、一時預けや、いざというときのヘルプを頼める環境をもつお母様方は、いつも明るくおらかな様子が見受けられます。いずれのケースのお母様と、小さなお子様をもつすべてのご家族を対象として、ビブリオキッズ&ベイベーは子育て支援の拠点となって、今、地域の子育て力向上を推し進めている最中にあります。

ビブリオが福岡の地に開館した2か月後の2012年8月に成立した「子ども・子育て支援法」に則られ、2015年4月には「子ども・子育て支援新制度」が施行されました。この制度で、「地域子ども・子育て支援事業」の中に、子育て支援が位置づけられたのです。

奇しくもビブリオキッズ&ベイベーは、この子育て支援法とともに、現場において今日までの歩みを進めて参りました。「子ども・子育て支援」とは、同法の第1章・第7条で「全ての子どもの健全な成長のために適切な環境が等しく確保されるよう、国若しくは地方公共団体又は地域における子育ての支援を行う者が実施する子ども及び子どもの保護者に対する支援」と、定義されています⁵⁾。

当館は、「地域における子育て支援を行う者」という使命の元、支援事業が示した「乳幼児とその保護者が相互に交流を行うことができる場所」づくりを、法整備に先駆けて開設し、率先して取り組んできました。その任務とは、同事業内容と同じく、「子育てについての①相談、②情報の提供、③助言、④その他援助」⁵⁾であって、日常的に遂行している取

り組みなのです。

親子に安全・安心感を持ってもらい、お母様の不安感や孤立感を少しでも解消でき、愛情をもって子育てできる環境を作ること、地域と広範囲のご家族を支援し寄り添うことが「医療法人 元気が湧く」の役割であると考えます。

小児歯科医院は、地域の子育て支援者!

当法人では、ライブラリーを併設していないKiD's 歯科べふ(福岡市城南区)でも、司書と保育士スタッフによる院内おはなし会を、0~1歳と2~4歳の2クラス開催してから5年になります。本年、その延長上で「絵本で子育て座談会」にも着手しました。子どもの行動に、どのように対応してよいか悩んでいるお母様や、わが子と同じ月齢の、他のお子様と比べて不安を抱くお母様、初めての子育てに心配ばかり募らせているお母様がたくさんいて、それを誰に相談したら良いかさえ悩んでいる方もおられます。

新しい令和の時代は、子どもたちの集まる小児歯科医院が新米ママたちの交流の場となって、育児の悩みに寄り添い、子どもの成長や発達を一緒に見守り支えていく任務を、今まで以上に求められるでしょう。

人間の発達課題を達成し続ける歯科医療従事者の皆さま方の元へ訪れるお子様と、保護者様の発達をも支援しながら、親子の身近な存在となって、若いお父様、特にお母様に気を配り、拠り所となる地域環境を構築していきましょう。



文献

- 1) 田澤雄作：メディアにむしばまれる子どもたち，教文館，東京，pp.54-95，2015.
- 2) 田島信元，他：歌と絵本が育む子どもの豊かな心－歌いかけ・読み聞かせ子育てのすすめ，ミネルヴァ書房，京都，311p，2018.
- 3) 田島信元，他：同上，pp.27-54.
- 4) 柳田邦男：大人が絵本に涙する時，平凡社，東京，2006.
- 5) 厚生労働省：子ども・子育て支援，厚生労働省HP <https://www.mhlw.go.jp/>